

科目名		担当者氏名	授業形式	単位	開講時期
幼児環境特論Ⅱ		専任教員	講義	2	後期
必修・選択	修了要件	選択			
	資格要件				
学習目標	本講義Ⅰ・Ⅱを通して多様で複雑化した幼児を取り巻く環境について、多様な視点で捉え、現状を正しく理解することを目標とする。また、幼児は周りの人々社会の影響を受けながら生活を送っているという観点から、子どもを取り巻く人的環境、社会環境について現状から課題を見出し、子どもを中心とした問題解決のあり方を探る。				
授 業 計 画					
回	項 目	授 業 内 容			
1	幼児の自然体験	幼児期の自然体験の意義			
2	秋の自然環境 (1)	秋の自然と行事について			
3	秋の自然環境 (2)	秋の自然を体験する			
4	秋の自然環境 (3)	秋の自然体験活動を通して発見したことを分かち合う			
5	ネイチャーゲームの作成	幼児向けネイチャーゲームの試みとネイチャーゲームへの登録申請			
6	子どもを取り巻く環境 (1)	子どもの遊び環境について			
7	子どもを取り巻く環境 (2)	幼児の家庭環境と親子関係について			
8	子どもを取り巻く環境 (3)	小学校教育への接続と環境教育			
9	冬の自然環境 (1)	冬の自然と行事について			
10	冬の自然環境 (2)	冬の自然を体験する			
11	冬の自然環境 (3)	冬の自然体験活動を通して発見したことを分かち合う			
12	購読演習 (1)	子どもの環境に関するデータの収集と分析について			
13	購読演習 (2)	子どもの環境に関する文献の購読と考察の視点について			
14	テーマ発表 (1)	子どもを取り巻く環境に関する今日の問題について事例の抽出			
15	テーマ発表 (2)	子どもを取り巻く環境に関する今日の問題について事例の検討			
参 考 書	柴崎正行・若月芳浩編『最新保育講座⑨保育内容「環境」』ミネルヴァ書房 2009 *他の参考書については、授業中に随時、紹介する。				
学習上の注意 (自己学習、学外学習など)	受け身ではなく、積極的な態度で臨むこと。都合が許す限り、戸外での自然観察や自然体験活動を行う。 自己学習・学外学習:データの収集と分析と検討。				
評価の方法と時期	主に、授業終了後提出のレポート課題(70%)、発表・提出物(30%)により総合的に評価する。				